

ハイ・コストパフォーマンスのチューブ・アンプ

# Ken Jordan ニュー・ラインナップ

エコノミー・プライスながらオール・チューブ仕様など高級ブティック・アンプ同様のスペックとサウンド・クオリティーを持ったケン・ジョーダンからニュー・ラインナップが発表された。(文：谷川史郎)

## Anejo 35

どことなくオール・コンポアンプの持つレトロな雰囲気を感じさせるシルバー・サランネット、ライトブルーのトレックス・フィニッシュなどブティック系チューブ・アンプのようなルックスが印象的なAnejoアンプ。アンプ部はエコノミーながらオール・チューブによるハイ・クオリティーなサウンドで好評のケン・ジョーダン「Classic Tube 35R」と同じ回路を採用しているが、このAnejoでは、さらに高品位なヴァンテージ・サウンドを得るためにジェンセン/Jensen社製30cmスピーカー・ユニットCH12/70を1基マウントしたこだわりの仕様となっている。ジェンセン・スピーカーと言えば、かつてアメリカン・アンプのトラディショナルブランドのアンプなどに採用され、その立ち上がりの良いアタック感、抜けが良く艶やかなトーンなどで高い評価を博し、現在でも楽器用スピーカー、特にコンボ・タイプのギター・アンプ用ユニットとして高い人気をキープしているブランドとして知られている。さて、ジェンセン・スピー



カーをマウントしたそのサウンドだが、まず感じられるのがクリーン、クランチ共にピッキング・アタックに対する反応、立ち上がりの良さ。輪郭のはっきりとした音だが、決してイヤなピークや必要以上のトレブリーさがないので、どんなトーン・セッティングでも素直に音が出てくる感じだ。特にクリーン・セッティングでは、基本となっているClassic Tube 35Rの持つレンジの広さとチューブらしい芯のしっかりとした暖かいトーンにジェンセンの持つレスポンスの良い

アタック感とトーン・キャラクターが加味されて出てくる。ゲイン・レベルを上げていくとクリーン・サウンドのまま腰が強くなっていくようにパワー感が増



していく。シングルPUタイプでは、クリーンで素直かつ芯のしっかりとしたサウンド。ハムバックング・モデルのギターでは、クリーンを基本に若干のブースト感を持ったブルー・ジューン・アンプ系のファット・サウンドが出てくるが、共にボリュームが上がることによる余計な低域のプーミーさなどまったく表われず、基本キャラクターである素直で切れの良い粒立ちは損なわれる事無く出てくるのは非常に気持ち良い。基本はクリーン・サウンドだが、サステインも自然でプレーヤー側のニュアンスに対して自由にトーンをコントロールすることができるなど、数十万の高級ハンドメイド/ブティック・アンプにひけを取らない十分なクオリティーを持ったアンプと言える。

価格：6万5,100円

## Tiny Valve Box 10" Speaker Box

ハイエンド・ミニスタックを思わせるルックスを持ったオールチューブ・ヘッド・アンプとキャビネット。ギター用ヘッドTiny Valve Boxは横27cm、高さ15cmというコンパクトなサイズのヘッドで、ブリ・セクションに12AX7管、パワー・セクションに6L6管を使用、出力10W(RMS)という仕様となっている。単体アンプ・ヘッドなので当然スピーカー・キャビネットが必要になるが、なんと本体価格が1万円を切るというエコノミー・プライスながら、ベスト・マッチなキャビネットとして約36cmサイズのキューブ・サイズに10インチ・オリジナル・スピーカーを1基マウントした「10"Speaker Box」が発売されているので、セットでスタックを組むとよいだろう。ヘッド部のコントロールは、ゲインとマスター・ボリュームによる2Vol仕様、ゲイン・ボリュームのレベル設定によってクリーンからライトなクランチ・サウンドまでをカヴァーすることができる。マスター・volをフルにし、ゲイン・ボリュームを低め(9時~10時位置)にセットしたクリーン・セッティングでは、

チューブらしいファットで落ち着いた音のあるサウンドが出てくるが、小型アンプでのクリーン・サウンドにありがちなゲイン・レベルを下げた時の抜けの悪さや音圧感の弱さはなく、自然な低域の広がりを含む暖かいクリーン・サウンドが出てくる。この辺りはやはりチューブ・アンプの利点と言えるだろう。ゲインをフル近くするとドライブが加わってくるが、このアンプの場合はブースト・タイプのナチュラルな歪み感で、ドライブ系エフェクター的な歪みではなく、ライトなクランチ感と言った方が近いだろう。ハム・バックUPUでは、オール・チューブアンプをフルにしたようなザラつきを含むチューブ・ブースト・トーン、シングルPUでは、ピッキング時に芯に軽く歪み感が加わるようなナチュラルなサチレーション・トーンが出てくる。共にギター側のボリュームやピッキングなどニュアンス・フォローはとても良く、ジャズやブルースなどフレーズのニュアンスでトーンや歪み感に表情を加えていくタイプのスタイル。プレーヤーにはとてもコントロールしやすく弾きやすさを感じさせてくれるだろう。

ヘッドはクリーム・レザーのみ、キャビネットはブラックとクリーム・レザーが用意されている。

Tiny Valve Box 価格：2万6,040円  
10" Speaker Box 価格：1万,290円



## Classic 10 N



本体に6.5インチ・スピーカーを1基マウントしたコンパクトなアンプとして気軽に鳴らすことができるコンパクト&エコノミー・タイプの



ギターアンプ。ナチュラルウッド・キャビやゴールド・パーツがブティック・アンプのような雰囲気を感じさせている出力10wの小型アンプだが、コンパクトな特長を活かしAC電源の他、充電バッテリーによる駆動も可能なため、自宅練習用からアウト・ドアなど電源の無い場所でのセッションなど場所を選ばずにどこでも演奏を楽しむことができるのもこのアンプの魅力の一つと言えるだろう。ゲインとマスターによる2ボリューム・タイプはSWによってクリーン/オーバードライブをセレクトすることができる。エコノミー・クラスの小型アンプの場合、キャビネットの造りやスピーカーのクオリティーによってクリーン・チャンネルでもボリュームが上がりにしたがって、どうしてもサウンドの透明感が薄れてしまったり、若干の歪み感が加わってしまうモデルもあるが、このクラシック10nでは、クリーンch使用時でもゲイン・レベルの設定が出来るため、ゲインでクリーンにセッティングしておけばマスター・volがフルでもクリスタルなクリーン・サウンドを得ることが出来る。

更にゲインを上げていくことによって若干のクランチ感を持ったロック・タイプのクリーン・サウンドまで得られるなど、小型アンプのクリーンchの中では非常に使い易く作られているのもポイントの一つと言えるだろう。そしてドライブchでは、ソリッドで粒立ちのハッキリとしたクランチ・サウンドから、ゲイン・フルとEQのコンビネーションによるパワフルなハイゲイン系のドライブ・サウンドまでを作ることが出来る。

ライトな歪みでは、ヴァンテージ系シングル・モデルのギターにベスト・マッチしそうなブライで切れの良いトーン、ゲイン・アップとハムPUでは十分な歪みとサステインによるパワフル・ドライブなど、ドライブchでもクリーンch同様の幅広いサウンド・メイクを得ることが可能だ。自宅用をメインとした小型で、使い勝手の良いアンプとしてはとても良いだろう。

価格：1万5,540円

## Classic Tube 35 R



出力35W、スピーカーにはセレクションG12Pを採用というハイスぺックな小型チューブ・コンボ・アンプ。プリ部に12AX7WAを3管、パワー・セクションにはEL84管を2本採用、さらにスプリング・リバーブのドライブ用として12AT7管を使用するなど、高品位チューブ・サウンドに



こだわりを持ったモデルだが、広いダイナミック・レンジとニュアンス・フォローの良さなど、チューブならではのサウンドとシンプルなコントロールが特長のアンプとなっている。そのコントロールだが、ピンテージ・アンプのように1ボリューム、3トーンそしてリバーブというシンプルな仕様。それだけに基本となるキャラクターが気になるところだが、ギターを繋いでみると実にバランスの良いクリーン・サウンドが出てくる。低いボリュームでのクリーン・サウンドでは透明感を持ちながらも決して線は細くないトーンが出てくる。また、小型トランジスター・アンプのクリーンに有りがちなアタックだけが前に出てしまう線の細いトーンとは違った、ピッキングに対して自然なサステインと音圧のあるサウンドが出てくる。この辺りは、やはりオール・チューブならではと言えるだろう。この35Rの場合、フル・ボリュームでもチューブ・アンプ特有の僅かなクランチ感/若干のブースト感の加わったクリーン系サウンドになり、ドライブ系アンプの様なオーバードライブ/クランチ・サウンドまでは変化しないが、フル・ボリュームでも嫌な低域の膨らみやノイズ的な箱鳴りは出て来ないので、フルに近いボリュームでの演奏でもバランスの良いサウンドを得ることができる。1ボリューム・タイプなのでクランチ・トーンを得るにはブースターやオーバードライブなどを使用することになるが、エフェクターのノリは良くアンプ自体の基本キャラクターであるナチュラルでウォームなトーンをベースにしたドライブ・サウンドが出てくる。

そしてナチュラルでバランスの良いクリーン・トーンは、ジャズ・スタイルにも最適だろう。チューブ・ドライブによるスプリング・リバーブなどチューブによる上質なクリーン・サウンドのアンプを求めているギタリストは要チェックのアンプだ。

価格：5万2,290円

## Classic Tube 25R



ケン・ジョーダンの売りの一つでもあるブティック・アンプを思わせるようなナチュラル・



ウッド・キャビがポイントのクラシック・シリーズのチューブ仕様25Wギター・アンプ。4万円台というエコノミー・プライスながらプリ部に12AX7を3管、パワー・セクションにはEL84管を採用したオール・チューブ仕様、さらにスピーカー・ユニットにはギター用スピーカーの定番ブランドとして多くのモデルに採用されている、セレクション社製10インチを使用するなど、こだわりのハイスぺック仕様となっている。

出力は20Wだがチューブ・パワーだけに音圧感には十分で自宅はもちろん、レコーディングからスモールクラブでのライブにも使用可能だろう。インプット・セクションは、ボリューム・コントロール+ブーストSW、そしてマスター・ボリュームというコントロール。ボリュームを上げていくにしたがってサウンド・キャラクターはクランチへと向かって行くが、チューブ特有なトーンの芯に自然なクランチ感が加わってくる。フル・ポジションでライトなオーバードライブ・サウンドになるが、ブーストSWをオンにすることにより、更にファットなドライブ・サウンドへとパワーアップする。ブーストは本体SWの他、フットSWによってもオン/オフできるが、ディストーションが加わるのではなくあくまでクランチ感が増しチューブらしいファットなドライブ・トーンが得られるので、低いボリューム・ポジションでブーストをオンにしブルー・クリーン・サウンドを作るなど、チューブ・ドライブ派にとってはとても使い易い仕様となっている。アンプとしてのトーン・キャラクターは、どちらかという高域に伸びのあるソリッドで粒立ちの良いトラディショナルなアメリカン・サウンドに近いがクセはなく、シングル、ハム・バックどちらのPUタイプに対してもバランスのよいサウンドが出てくる。ハイ・ゲイン・タイプのキャラクターではないが、チューブらしいウォームなクリーン、チューブ・クランチ・ブースト系のオーバードライブ・サウンドを好む人には最適なモデルだ。

価格：4万7,250円